

第3学年 国語科学習指導案

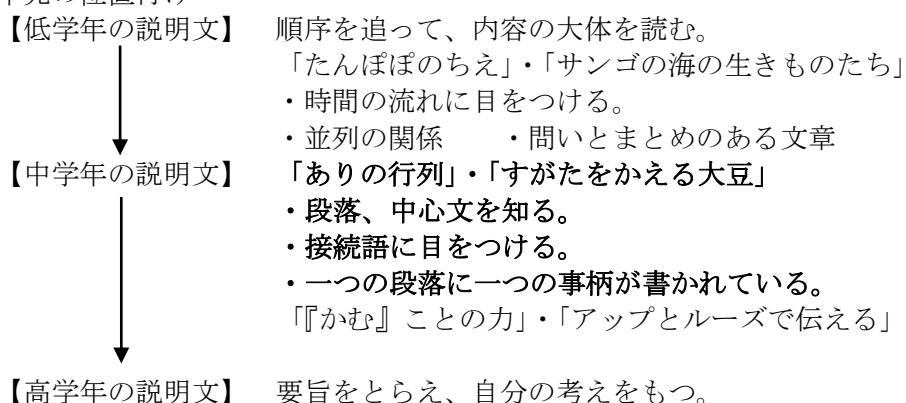
日 時 平成21年10月16日(金) 5校時
児 童 第3学年 男10名 女20名 計30名
授業者 T1 朝日田 浩子 T2 下田隆衛

付けたい読解力	A 中心となる語や文を見つけながら読む力
	B 文と文のつながり方や段落相互の関係を考えながら読む力
	C 自分の考えをもちながら読む力

1 単元名 大事なことをたしかめよう (光村3年下)
教材名 「すがたをかえる大豆」

2 単元について

(1) 単元の位置付け



(2) 教材について

第3学年及び第4学年の説明的文章の読解力として、最も身に付けさせたいことは、「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を正しく読むこと」である。具体的には、段落を意識し、まとまりに注意しながら読むことができるようにすることである。そのために、接続語、文末表現、繰り返し語句などの言葉を押さえながら、段落に書かれている内容を丁寧に整理していくことが大切である。その際、児童が目的意識や必要感をもち、主体的に文章の「中心」をとらえることができるような学習展開を工夫することが求められている。

本教材は、話題提示—事例—筆者の考えという「はじめ・中・終わり」の文章構成になっており、様々な大豆の食べ方が、人の手の加え方と共に解説されている。1学期に学習した「ありの行列」のような仮説・検証型とは異なり、一貫して、大豆がどのような工夫で、どのような姿に変わっていくのかが述べられている解説型の文章である。段落構成や中心文、キーワードが明確であること、接続語に着目させやすいことなど、文章の要点を理解させやすい教材である。

「大豆」は、何らかの形で毎日口にすることが多く、児童にとって身近な食べ物である。しかし、見ただけでは大豆からできているとは思われないものもある。そのような意外性からも、新鮮な驚きと興味をもって学習を進めることができる教材である。

(3) 児童について

NR Tの結果を見ると、全体的に国語の力が低い。「正しく聞き取ること」が不十分、且つ、設問自体の意味を理解していない児童が多かった。そのため、音読と教材文の視写を継続すると共に、読書時間の確保に努め、文章をじっくり読む習慣作りに取り組んできた。

1学期の説明文教材「ありの行列」では、「段落」「中心文」「問いと答えがある文章構成」を学習した。中心文を見つける方法として、繰り返し出てくる言葉や接続語、文末表現に着目して読む方法も学んだ。生き物好きの児童が多く、教材文の読み取りから「生き物クイズ」作りまで、意欲的に学習に取り組むことができた。しかし、中心文を見つける際、説明部分を選択する児童や選択の根拠がはっきりしない児童も多く見られた。重要語句を押さえ、中心文を丁寧に確認していくことが必要である。また、自分の考えを整理して書くことは個人差が大きく、支援を必要とする児童が複数いるため、TT体制を組んで指導に当たっている。

(4) 指導観

「ありの行列」では、教師主導の穴埋め形式で要点をまとめた。本教材では、児童が自分で要点をまとめていくための基本的な方法を身に付けさせたい。そのために、「1. 中心文を見つける」「2. 短い文にまとめる」という手順を示す。大豆をおいしく食べる5つの工夫事例は並列の関係であり、文章の組み立てが類似していることから、繰り返し取り組むことで定着を図りたい。また、叙述に即した読みをもとに、写真や挿絵を活用した説明、構造的なワークシートの活用、まとめの段階における小見出し作りなどを通して、内容をおおまかにとらえる力もつけさせたい。第2教材「食べ物がかせになろう」では、第1教材で学んだ文章構成や表現方法を活用していく。

本単元は、児童の実態からT T体制で指導に当たる。書く活動で支援を必要とする児童や発表児童の補助の他、ペア学習時の机間指導においてもT 2の活用を図りたい。

本研究に関しては、単元全体や本時で身に付けたい力を明らかにしながら、授業を展開していく。また、初発の感想や教科書へのサイドライン、ワークシートへの書き込み、「食べ物がかせになろう」等の書く活動を通して、確かに読み取る力を育てていきたい。

3 単元目標

- (1) 大豆や身近な食べ物に興味をもち、資料や関連図書から必要な情報を読み取ろうとする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 中心となる語や文に着目し、段落相互の関係を考えながら、文章を正しく読む。
(読むこと イオ)
- (3) 身近な食べ物について調べ、中心を明確にしなが、段落と段落の続き方に注意して書く。
(書くこと イエ)
- (4) 文章全体における、段落の役割を理解する。(言語 オ (イ))

4 学習指導計画 (17時間)

- 〈一次 つかむ〉 1 ・題名について話し合う。 ・全文を読み、初発の感想を書く。
2 ・新出漢字や読み替え漢字を確認する。分からない言葉の意味を調べる。
- 〈二次 見通す〉 3 ・「食べ物がかせになろう」を確認し、学習計画を立てる。
- 〈三次 深める〉 4 ・第1～2段落を読み、話題提示の内容を読み取り、読みの視点をつかむ。
5 ・第3～4段落を読み、工夫・食品名・手の加え方を読み取る。
6 ・第5～7段落を読み、工夫・食品名・手の加え方を読み取る。(本時)
7 ・第8～9段落を読み、筆者の考えをまとめる。読後感想を書く。
- 〈四次 まとめる〉 8 ・段落ごとに小見出しを考える。
・全文を「はじめ・中・終わり」に分け、段落相互の関係を考える。
- 〈五次 広げる〉 9～17・調べたい食べ物についての情報を収集する。 ・情報を整理し、本を作る。

5 本時の指導

- (1) 目標 大豆をおいしく食べる工夫と具体例を読み取り、要点をまとめる。

本時で付けたい読解力	
A	中心文からおいしく食べる工夫に関するキーワードを見つけ、要点をまとめる力
B	工夫・食品名・手の加え方と続く、文と文のつながり方を考えながら読み取る力

(2) 展開

	学習活動 (○主発問 ・学習内容)	指導上の留意点・(評価方法)
つかむ 5分	1 学習課題を確認し、見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">大豆をおいしく食べるくふうを読み取ろう。</div>	・前時までの学習を想起させながら課題を提示する。 (観察)
見通す 5分	2 学習場面を音読する。(形式段落⑤⑥⑦) 3 問題解決の見通しをもつ。 ○手がかりになる言葉は何ですか。	○視点を確認する。 ・「また」「さらに」「これらのほかに」などの接続語に着目し、一つの段落に一つの「くふう」が書いてあることを押さえる。

一 「すがたをかえる大豆」 教材分析表

3		2					1		意味 段落
⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	形式 段落
ちえ よいところ	味 えいよう 育てやすい	とり入れる時期 育て方	小さな生物 ちがう食品	えいよう ちがう食品	ひく	いる にる	ダイズ 手をくわえる くふう	食品 すがた	キーワード
大豆のよさに気づき、食事に取り入れてきた昔の人々の知恵に驚いた。	多くの食べ方が考えられた理由は、味がよく、たくさん栄養を含み、育てやすさから多くの地域で植えられたためである。	ダイズのとり入れ時期や育て方を変える工夫で、枝豆やもやしができる。	小さな生物の力で違う食品にする工夫で、納豆や味噌、醤油ができる。	大切な栄養だけを取り出し違う食品にする工夫で、豆腐ができる。	大豆を粉にひく工夫で、きな粉ができる。	大豆の形のままでいたり、煮たりする工夫で、いり豆や煮豆ができる。	大豆は、ダイズの種である。手を加えておいしく食べる工夫をしている。	ほとんど毎日口にしていて大豆だが、姿を変えているので気づかれない。	要点
	このようにくのはくからですそのうえくためでもあります (やせた土地)	これらのほかにくもあります (ゆでる)	さらにもあります (むす) (まぜ合わせる)	またくもります (すりつぶす) (熱する) (しぼり出す)	次にくがあります (ひく)	いちばんくは、くです (いる)(にる)	そのためくしています (消化)	くますかそれは	言語事項 (難語句)
	【終わり】 まとめ			【中】 五つの工夫の説明			【初め】 話題提示	構成	

二 日常の学校生活における言語活動

- ① 物語や詩を読み、感想を交流し合うこと。
- ② 「はじめ」「中」「終わり」の文章構成で日記を書いたり、スピーチをしたりすること。
- ③ 図鑑や辞典を利用したり、関連図書を読んだりすること。